

## 平成30年度 学校経営計画及び学校評価

### 1 めざす学校像

「寄り添う」「粘り強い」教育を実践し、生徒一人ひとりの夢の実現をサポートする。また、自らを高めるとともに、他者を尊重し、社会に貢献することのできる人材を育成する学校をめざす。

### 2 中期的目標

- 1 エンパワメントスクールの教育内容の確立  
P D C Aサイクルで組織的に取り組む。  
ア 国社数理英の基礎科目及びエンパワメントタイムについて、担当者を中心に定期的に振り返りを実施し、必要に応じて修正を加えながら行う。  
イ 他のエンパワメントスクールとの情報共有を行う。  
※ 学校教育自己診断において、「モジュール授業がよくわかる」の肯定的な意見の割合 70%以上を維持しつつ、2020年度には75%とする。(H29 72.6%)、「エンパワメントタイムに関する項目」の肯定的な意見の割合 50%以上を維持しつつ、2020年度には60%とする。(H29 56.4%)とする。  
ウ 4つの系列科目の内容の充実  
※ 系列の科目に関する授業アンケートについて、全ての項目において、3.1以上とする。
- 2 3つの力（新たな自分を創造する力、人間関係を大切にできる力、社会に貢献する力）を育む。
  - (1) 学習活動の充実  
ア 「わかる授業」「楽しい授業」をめざすとともに、生徒が主体的に参加し、自ら学び、考える力を養成する。また、そのための環境整備を行う。  
※ グループ学習、少人数展開授業、公開授業、新しい教育機器活用等を通して授業力を向上させ、2019年度において、授業アンケート「授業展開」の平均値を4段階中3.20以上にする。<H30 3.18、2019 3.20、2020 3.20> (H29年度 3.17) また、授業アンケート「生徒意識1」及び「生徒意識2」の平均値3.0以上を維持する。(H29年度 3.05、3.05)  
イ 4つのコース（海洋、情報、福祉保育スポーツ、英語国際）の内容を生徒にとって、より魅力的なものにする。
  - (2) 特別活動の充実  
体育祭、文化祭、山海人プロジェクト等の全員参加型行事、国際交流、地域活動等の希望参加型行事を実施するとともに、部活動、生徒会活動等を活性化させる。  
※2019年度においても全員参加型行事の山海人プロジェクト、体育祭の事後アンケートにおける肯定意見70%以上を維持する。(H29年度 体育祭76%、山海人プロジェクト 実施せず) また、文化祭事後アンケートを70%以上にする。<H30 65%、2019 70%、2020 70%> (H29 63%) 国際交流、地域活動等の希望者参加型行事の事後アンケート等ふりかえりにおける肯定意見80%以上を維持する。  
※2019年においても学校教育自己診断における生徒の部活動加入率30%以上を維持する。部活動加入者の満足率70%以上を維持する。(平成29 72.8%)
  - (3) キャリア教育の充実  
ア 「寄り添う」「粘り強い」生徒指導の展開  
※生徒向け学校教育自己診断における「高校にはいろいろなきまりがあって厳しいけれど、自分のためになっていると思う」の否定的な意見を50%以下にする。(平成29年度 49.3%)  
イ 人権教育の推進  
※生徒向け学校教育自己診断における「人権を大切にするための学習が十分に行われている」を50%にする。(平成29年度 47.2%)  
ウ コミュニケーション能力の育成と人間関係構築への支援  
※生徒向け学校教育自己診断における「エンパワメントタイムは将来、社会人として生きていくための力がつく授業だと思う。」の肯定的意見について50%以上を維持し、2020年度において60%以上にする。(H29 56.4%)とする。  
エ 望ましい職業観の育成と進路実現  
※系統的なキャリア教育により、卒業時における進路未決定者を10人以下にする。(平成29年度卒業生のうち未決定者70人)  
※ワープロ検定、英語検定、漢字検定等への参加者、毎年100人以上を維持する。  
オ 国際感覚の育成  
※台湾の高校との相互交流や国際理解ワークショップ、及びオーストラリアの高校とのテレビ会議など、国際交流事業を定着させる。
  - (4) インクルーシブ教育のさらなる展開  
ア 授業のユニバーサルデザイン化を図る。  
※ 2019年度において、授業アンケート「授業展開」の平均値を4段階中3.20以上にする。<H30 3.18、2019 3.20、2020 3.20> (平成29年度 3.17)  
イ LHR や総合的な学習の時間を活用して、互いに違いを認め合い、共に生きる集団づくりを図る活動を実施する。  
※ 生徒向け学校教育自己診断における「人権を大切にするための学習が十分に行われている」を50%にする。(平成29年度 47.2%)  
ウ 高校生活支援カードを活用し、必要に応じてケース会議を開く。個別の教育支援計画を必要な生徒に対して作成する。(平成29年度新たに作成した生徒は6名)  
※ 高校生活支援カードの提出100%を維持する。  
エ 地域の小学校への点字の出前授業や、車いす体験ボランティアなどを継続する。  
※ 平成29年度までの取組みを継続する。
- 3 人材の育成と管理
  - (1) 次年度第一学年担任団の任命を早期（2学期まで）に行い、具体的な準備を行うことを通して若手教員のOJTを進めていく。また、早期に次年度担任を任命することにより、今年度の学年担任団からの引き継ぎをリアルタイムでできるようにする。
  - (2) 教員全体の資質向上のため、外部講師を招聘し、授業改善を中心に、人権問題、教育相談、社会人教育など、必要に応じたテーマで講演会や研修を実施する。 ※ ミドルリーダーや外部講師による教員研修を年間20回実施する。
  - (3) 働き方改革の一環として、会議等の効率化を図る。
- 4 地域連携と広報活動
  - ア 地域の小学校への点字等の本校の特色を活かした出前授業や、車いす体験ボランティアなどを継続する。(再掲)
  - イ 地域の人たちから学ぶ場を継続的に確保する。※参加依頼のある岬町内の地域行事に生徒会や部活動、有志が1団体以上参加する。
  - ウ 学校の取組みを発信する

#### 【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析	学校運営協議会からの意見

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 エンパワメントスクール開きと教育内容の確立	P D C A サイクルで組織的に取り組む。 ア 国社数理英の基礎科目及びエンパワメントタイムについて、担当者を中心に定期的に振り返りを行う。 イ 他のエンパワメントスクールとの情報共有を行う。 ウ 系列科目の内容の充実	ア 担当者を中心に、振り返りの会議を月に1回開催する。 また、次年度以降の選択科目等について、生徒の状況を踏まえた修正を行う。 イ 教育庁主催の会議に担当者が出席し、情報収集するとともに、職員会議等においてフィードバックする。 ウ 定期考査ごとに、生徒の振り返りを行う。	ア 学校教育自己診断において、「モジュール授業がよくわかる」「『エンパワメントタイム』に関する項目」の肯定的な意見の割合をそれぞれ70%、50%以上を維持するとともに、75%、60%に近づける。(平成29年度72.6%、56.4%) ウ 授業アンケートの全ての項目において、3.1以上とする。	
2 (1) 学習活動の充実	ア 「わかる授業」「楽しい授業」をめざすとともに、生徒が主体的に参加し、自ら学び、考える力を養成する。 イ 4つのコース(海洋、情報、福祉保育スポーツ、英語国際)の内容を生徒にとって、より魅力的なものにする。	ア ①学習環境を整え学習目標を明示して授業を始める、②身近な教材を取り上げ生徒の興味関心を引く、③メリハリ・テンポ・リズムのある授業を心がける、④考える・説明を聞く・黒板を写すなどを明確に分ける、⑤具体的にほめるという5項目の内容を教員が目標とする。 ・授業力向上のためのプロジェクトチームを結成し、校内全体の取組みを進める。 ・生徒が自主的に学習できる環境整備や取組みを行う。 イ 各コースで従前と異なる取組みを検討する。	ア 生徒向け授業アンケート「授業展開」の項目において、全生徒の評価の平均が4段階中3.18とする。(平成29年度3.17) また、授業アンケート「生徒意識1」「生徒意識2」の平均が3.0以上を維持する。(平成29年度3.05、3.05) イ 各コースで新しい取組みを最低1つ行う。	
2 (2) 特別活動の充実	体育祭、文化祭、山海人プロジェクト等の全員参加型行事、国際交流、地域活動等の希望参加型行事を実施するとともに、部活動、生徒会活動等を活性化させる。	・様々な行事の企画運営に、生徒会や希望生徒を参加させ、生徒が興味関心を持って取り組めるよう工夫する。 ・年度当初に、1年生に対して部活動紹介を行うとともに、業績を上げた部活動を全体の場で公表し、表彰する。 ・山海人プロジェクトの内容について、雨天時のプログラム等を検討する。 ・広報誌等に活動を掲載してもらうなど、地域等への発信について検討する。	・全員参加型行事の山海人プロジェクト、体育祭の事後のアンケートにおける肯定意見70%以上を維持するとともに、文化祭では、60%(H29 63%)とする。 ・希望者参加型行事の事後アンケート等ふりかえりにおける肯定意見を80%以上にする。 ・広報誌などへの掲載回数1回以上。	
2 (3) キャリア教育の充実	ア 「寄り添う」「粘り強い」生徒指導の展開】 イ 人権教育の推進  ウ コミュニケーション能力の育成と人間関係構築への支援 エ 望ましい職業観の育成と進路実現  オ 国際感覚の育成	ア 生徒の礼儀やマナーについての意見を学校運営協議会で聞く。 イ LHR や総合的な学習の時間に、様々な人権課題について学び、考える機会を設けたり、人間関係を築く基本的なスキルを身に付けるためのグループワークを行ったりする。 ウ エンパワメントタイムの内容を他学年のLHR や総合的な学習の時間で実施する。 エ 1年次から進路実現を目標としたHR を計画し、講演や施設見学などを実施し、職業観の育成に努める。 ワープロ検定、英語検定、電卓検定等への参加者を毎年確保する。そのために、年度当初から実施日程について生徒に示し事前指導する。 オ 台湾の高校との相互交流を継続し、交流内容の充実を図るとともに、訪問受け入れ時の参加人数をできる限り増やす。 テレビ会議の開催日程を早期に決定し、準備期間を確保するとともに、多数の生徒の参加を促す。	ア 生徒の礼儀とマナーについての学校運営協議会の意見を校内外での生徒指導に反映させ、これまでの登下校時のあいさつ運動や通学路やその周辺での指導を継続する。 生徒向け学校教育自己診断における「高校にはいろいろななきまりがあって厳しいけれど、自分のためになっていると思う」の否定的な意見を50%以下にする。(平成29年度49.3%) イ・ウ 生徒向け学校教育自己診断における「人権を大切にするための学習が行われている。」を50%以上にする。(平成29年度47.2%) エ 卒業時における進路未決定者を10人以下にする。 各種検定等への参加者のべ300人以上にする。 オ 台湾の高校の訪問を受け入れる際の参加生徒数を10名以上、台湾への訪問生徒数を5名以上確保する。 テレビ会議の企画段階から生徒が参加し、当日の進行も担当する。	
2 (4) インクルーシブ教育のさらなる展開	ア 授業のユニバーサルデザイン化を図る。 イ 共に生きる集団づくりを図る活動を実施する。 ウ 高校生活支援カードの活用 エ 支援教育体制の充実	ア 支援教育の観点にも留意しつつ、2(1)の授業づくりに取り組む。 イ LHR や総合的な学習の時間に、様々な人権課題について学び、考える機会を設けたり、人間関係を築く基本的なスキルを身に付けるためのグループワークを行ったりする。(再掲) ウ 高校生活支援カードを入学時に新入生全員に作成させ、生徒の状況を年度当初に共有する。また、必要な生徒に対して、個別の教育支援計画を作成する。 エ 国事業での研究成果を踏まえ、個々の特性に応じた能力を引き出すために、野外活動やスポーツ等の体験的な学習を通じたライフスキルの学習に向けた取組みを進める。	ア 2(1)と同じ イ 2(3)イ・ウと同じ  ウ 高校生活支援カードの提出100%を維持する。 必要な生徒に個別の教育支援計画を作成する。  エ 配慮等が必要な生徒に対して、体験的な学習の機会として、地域資源等を活用した野外活動等を年に2回以上開催する。	

## 府立岬高等学校

3 人の育成 と管理	<p>ア 早期の役割分担によるOJTの推進。 イ 教員研修の充実。 ウ 働き方改革の推進</p>	<p>ア 次年度第1学年担任団の任命を早期(2学期まで)に行い、具体的な準備を行うことを通して若手教員のOJTを進めていく。また、他学年についても早期に次年度担任を任命することにより、引継を円滑に行えるようにする。 イ ミドルリーダーや外部講師により、授業改善を中心とする研修を行う。 ウ 業務の効率化を図る。</p>	<p>ア 次年度校内人事の早期決定(1年担任を9月までに、その他の学年の担任を年内に任命する。) イ ミドルリーダーや外部講師等による教員研修を年間20回実施する。(H29 17回) ウ <b>働き方改革の一環として、会議等の効率化を図る</b></p>	
4 地域連携 と広報活動	<p>ア 地域の小学校への点字等本校の特色を活かした出前授業や、車いす体験ボランティアなどを継続する。 イ 地域の人たちから学ぶ場を継続的に確保する。 ウ 学校の取組みを発信していく。</p>	<p>ア 取組みを継続する。 イ 参加依頼のある岬町内のつつじ祭り、教育フェスタ等の地域行事に生徒会や部活動、有志が参加する。 ウ 養殖しているふぐ等の特色ある取組みを活用した広報を行う。</p>	<p>ア 取組みを継続する。 イ 参加依頼のある岬町内の地域行事に生徒会や部活動、有志が1団体以上参加する。 ウ 新しい活用方法を1つ以上考え、発信する。</p>	